

北海道唯一の精米輸出拠点が石狩湾新港に

石狩湾新港から中国向けに 日本産精米の輸出が可能になりました

本年5月、中国向けに日本産精米を輸出できる「精米工場」と「くん蒸倉庫」の追加指定が中国側と合意に至り、石狩湾新港地域内で操業する「ホクレン農業協同組合連合会・パールライス工場」と「小樽倉庫事業協同組合・低温倉庫」、「石狩湾新港倉庫事業協同組合・低温倉庫」が新たに農林水産省から指定を受けました。

中国向けに日本産精米を輸出できる精米工場とくん蒸倉庫は、これまで、神奈川県内の施設のみに限られていましたが、今回の追加指定により、北海道内では唯一、中国向けに日本産精米を輸出できる態勢が整いました。これにより、今後、北海道産米を石狩湾新港から中国に輸出する動きが活発化していくことが期待されます。

石狩湾新港地域



札幌圏最大の工業流通団地「石狩湾新港地域」は、札幌駅から15kmの好位置にあり、700社を超える企業が進出している。

指定された「精米工場」と「くん蒸倉庫」は、石狩湾新港のコンテナヤードから3km圏内の至近距離に位置しており、輸送時間の短縮と輸送コストの削減が可能。

ホクレンパールライス工場では、ISO9001認証や精米HACCPの認定を受け、原料入荷から製品出荷までの全工程において、安全・安心な製品づくりを実践しています。また、お客様の様々な要望にお応えするため、ロットに応じた大量製造や少量多品目製造、安定した品質を求められる業務用や無洗米製造など、細かなニーズに対応可能な製造ラインを導入しています。



北海道では、病気や害虫が発生しづらい冷涼な気候を活かし、農薬を減らした安全な米作りに取り組んでいる。



平成14年に操業開始。精米機や各種選別機を備えたラインはコンピュータ制御されている。

●ホクレンパールライス工場●

高品質の道産米を直接中国に輸出

き、国内2番目の中国向け輸出精米工場として指定されました。日本の食糧基地である北海道から、評価の高い「ゆめぴりか」をはじめとした良食味な北海道米を中国の方々にもご賞味いただきたいと考えています。

日本国内における人口減少や食の多様化による米消費の減少など、将来的なマーケットの縮小と需給動向を踏まえて市場調査を実施し、販売ルートの開拓と新たな需要の確保に取り組みとともに、生産者の所得向上に寄与していきたいと考えています。

道産米輸出の一翼を担う

●小樽倉庫事業協同組合・石狩湾新港倉庫事業協同組合●

小樽倉庫事業協同組合と石狩湾新港倉庫事業協同組合（ともに本社・小樽市）は、小樽市内に本拠地を置く倉庫会社で構成される組合で、石狩湾新港の樽川ふ頭背後に合わせ、4棟の低温倉庫を稼働させています。

同倉庫は、低温機能を持つ大規模な施設で、国民の主食である米穀をはじめ、加工食品や種子類を長期にわたる善良管理のもと品質の保持を図り、安全かつ効率的に保管することを目的に建設されました。

このたびの中国向けに日本産精米を輸出できる「くん蒸倉庫」の追加指定は、①輸出前にリン化アルミニウムを用いたくん蒸の実施、②あらかじめ3か月間、カツオブシムシ類の誘引剤を用いたトラップ調査の実施、③くん蒸の都度、くん蒸開始1か月前から精米の搬出時までの間、カツオブシムシ類の誘引剤を用いたトラップ調査の実施など、中国側が求める検疫条件をクリアしたことによるものです。

今後は、大消費地である札幌市の至近距離に位置する地理的優位性を活かし、米をはじめとする北海道産農産物の輸出拠点として、北海道経済の発展に貢献していくことが期待されます。

定は、①輸出前にリン化アルミニウム



1,000㎡に仕切られた低温倉庫が計18倉あり、全体の収容能力は約5万トンを誇る。



くん蒸倉庫の内部。一度に約2千トンの精米をくん蒸することができる。

Topics

石狩湾新港発電所のLNG受け入れが始まる



LNGやLPG、石油製品の受入・出荷基地として北海道のエネルギー需要を支えている。

号機までの建設が計画され、3機全てが完成すると合計出力は約171万kwになり、道内最大の火力発電所になります。

同社は石狩湾新港発電所について、「既に道内で稼働している火力発電所の経年化に対応するとともに、発電効率が高く環境特性に優れたLNGを燃料とするコンバインドサイクル発電方式の火力発電所として、燃料種の多様化と電源の分散化が図られます。」としており、将来的な電力の安定供給を確実なものとするための施設整備が進められています。

石狩湾新港―マニラを結ぶ直行便が就航

興亜海運(株)と長錦商船(株)の2社により石狩湾新港―マニラを結ぶ新たなコンテナサービスが開始され、本年8月28日に第1船となるコンテナ船「SIRI B HUM」が石狩湾新港に初入港しました。

同サービスは、興亜海運(株)が2隻、長錦商船(株)が1隻を投入し、相互にスペースチャーターを行って週1便のサービスを提供します。石狩湾新港では初のマニラ直行便の就航であり、今後の貨物の増加が期待されます。

創立30周年を迎えた石狩セメントターミナル



容量18,000トンのサイロで、社会インフラ整備に欠かせないセメントを供給している。

国内大手セメント会社の協力のもと創立され、花畔ふ頭の港頭地区で操業している石狩セメントターミナル(株)が本年4月に創立30周年を迎えました。

函館港から内航船で輸送されるセメントは、サイロに蓄えられ建設資材として主に札幌圏に出荷されており、平成29年に同社が取り扱ったセメントは約26万トンで、石狩湾新港の移入貨物の約1割を占める重要な品目となっています。

同社の今井社長は、「当社は道内最大の消費地である札幌圏に立地しており、効率的なセメント輸送が可能なことから、操業開始からの総取扱数量はこの6月で860万トンに達している。今後は新幹線関連の工事や札幌中心部の再開発工事等によるセメント需要の増加が見込まれており、引き続き安定供給に努めていきたい。」と展望をお話していました。